

学校を飛び出して、
地元で活躍するオトナを取材しよう！

好きなことを全力で 笑って楽しむ

有限会社ハルヤマ
代表取締役 春山健司さん



池田町で鉄工所を経営し、活躍されている有限会社ハルヤマの代表取締役・春山健司さんにやりがいなどを詳しく話をお伺いしました。

Q…工場では、具体的にどのようなものを作っていますか？

企業向けのものを作っています。

瓶を作る工場やごみ処理場などの設備で使われる鉄のパーツですね。会社によってほしいものは全然違うのでとても大変ですが、設計する人とタッグを組んで製造しています。

仕事を受注した際にもらう図面を見れば、大体どんなものかわかりますが、どこでどういう風に使われるかは、守秘の関係で分かりません。

全国からいろいろな仕事を請けていて、特に関西や関東の会社が多いです。

Q…先ほど見せていただいた鉄の板を丸める機械はなんですか？



三本ロールです。気温や湿度、厚みによって曲がり方が全然違うので、とても調整が難しい機械なんです。

一回目その機械を使って鉄の様子を見て、そこから二回目、三回目は「張り」で厚紙を押し当てながら丸めていく。しかし

これは、何回もやるとよくないので、三回でやるのがベストです。

完璧に作るのは、場数を踏んでないと難しいと思います。私も四、五回やってしまいます。工場長はバシッと、きめてますね。そういった場数を踏むのが大切だと思います。

Q…春山さんはなぜこの仕事を始めたのですか？

私は昔、父の鉄工所を継ぐつもりはなく左官屋さんになりたかったんです。理由は、私の知り合いが左官屋さんをやっていて、とても儲かっていたからです。なので建築の勉強をするために高校を卒業してから、名古屋の専門学校の建築工学科に行きました。

しかしその学校では、大きい現場で指示を出す現場監督の勉強をしました。どうせ現場監督するなら将来独立できるように、いろんなことを勉強できる会社に行こうと思ったので、岐阜の建築会社に就職しました。

そして現在の奥さんと出会いました。奥さんは当時、私より給料がよかったので、奥さんの収入でなんとかやりくりをしていこうと考えていたとき、「今の給料を二倍にするから帰ってこい」と父に言われました。二十三歳の私としてはそれがすごく魅力的でした。「鉄工所を自分で営めば儲けることができる」と父に言われて、帰ってきたのが始まりですね。

Q…春山さんがお仕事をするうえでやりがいがありますか？

たくさんあります。一個目は、私が絶対やらなきゃいけないことができたときですかね。たとえ

かをとことん突き詰めてく」ということをしたほうが良いと思います。

極端な話ですが、好きなことを突き詰めた結果、警察につかまってしまったとします。親や先生、地域の人や、学校など色々な人に迷惑をかけてしまいましたが、挑戦した経験は、人生のマイナスはならないと思います。

自分の行動の責任は自分にしか取れません。そうした苦い経験も、全部自分の栄養です。失敗を恐れて、失敗のないまま生きていくと、ガチガチになって何もできなくなってしまうと思います。

親や先生が見守ってくれる今だからこそ、どんな失敗してください。



【感想】

私は、春山さんのお話を聞いて大切なことに気が付きました。何か物事をするときに興味があるのに怖がって、緊張して一歩踏み出せないことがよくあります。そうではなく、まず自分でやってみる、試してみることが大切なのだと思います。これからの人生、何が起こるか分かりませんが、失敗を恐れずに生きていきたいです。

【取材・記事】 一年 久保田理功

ば従業員の人たちに給料を出すことです。給料日、振り込みが終わると「今月も何とかよかった。よかったな」と思います。

二個目は、難しい図面など、とても複雑なものを展開して、作ったものがピッタリくつittedときなどですね。さらにとても難しい仕事相談をされるときに、難しいことはわかっていますが「できます！」と言ってチャレンジするんです。そして何とか仕上げて、お客さんに喜んでもらう。これはとてもやりがいを感じます。

さらに、自分たちが作ったものを使われているところを発見した時は、とてもうれしいですね。やりがいを感じる場面はほかにもあります。

Q…日々のリフレッシュと、その時間をどのように確保しているか教えてください。

日々のリフレッシュは、一人でお酒を飲んだり友達が集まれば、キャンプをしたり、バイクに乗ったり、映画を見たり、いろいろなことしますね。

時間については、私はこの会社で働いていますが、時給で働いているわけではないんです。

